

優秀賞

# おんねん

茨城県 ひたちなか市立高野小学校一年 川口 美俐亜

わたしは、おとうさんがだいすきです。たくさんなまえをよんで、たくさんあたたまをなでてください。ぎゅっとだきしめてくれるけど、それはちょっとくるしいときがあります。だけど、おとうさんのおおきなてはともあんしんするので、だいすきです。

そんなわたしのおとうさんは、いまいっしょにくらしています。一ねんまえから、きょうとにすんでいます。だから、まいにちはあえません。でんわもたまにしかできません。わたしのゆうがくしきにもこれませんでした。それは、わたしのおとうさんがじえいたいではたらいっているからです。すごくさみしいけれど、あえるひをたのしみにしてわたしとかぞくはせいかつしています。

ことしのおしゅうがつ、おとうさんはいえにかえってくるよていでした。わたしは、おとうさんとあそぶことをすぐくたのしみしていました。けれど、

おとうさんはかえってこれませんでした。いしかわけんでおおきなじしんがあったからです。おとうさんからかえれないとれんらくがあったとき、わたしとおねえちゃんはおおきななきました。かなしくて、さみしくてなみだがとまりませんでした。そんなとき、おかあさんが、

「てれびをみてごらん。」

といいました。てれびをつけてみると、じしんでたくさんのたてものがたおれていたり、わたしとおなじくらのこがおうちにかえれず、さむいたいいくかんでおとまりをしていました。そんなひとたちにもつをとどけたり、かたづけをしたり、けがをしたひとをたすけているじえいたいのひとたちがたくさんてれびにうつっていました。そして、たすけてもらったひとたちが、

「ありがとうございます。」

といってえがおになっていました。そうりだいじんがじえいたいのところへ行って、

「ありがとうございます。」

といているのもてれびで見ました。わたしは、これをみておとうさんもこのじえいたいのひとりなんだとうれしくなりました。

おとうさんにあえなかつたことはかなしかつたけれど、たくさんさんのひとのちからになってがんばっているじえいたいのおとうさんをしてることができて、こころがどきどきしてみんなにわたしのおとうさんをじまんしたくなりました。

このなつやすみもおとうさんはかえってくるひに、じしんがあつてかえってこられなくなりました。が、つくりしましたが、でんわで、

「あえないけど、しゅくだいもからでもがんばってね。おうえんしてるよ。」

といわれました。ぜんりよくでがんばっていいほうこくができたらいいなとおもいます。そして、つぎのおしゅうがつにあつたとき、ひとのためにがんばるおとうさんがもっとだいすきになったよとつたえたいです。

